

■市民説明会の記録

日 時	令和2年1月28日（火） 19時～	令和2年1月30日（木） 19時～	令和2年2月5日（水） 19時～
場 所	総合センター 第1会議室	本田コミュニティセンター 多目的ホール	巢南公民館 多目的ホール

◆Q&A

Q 市民説明会用資料（以下「資料」とする）では、新庁舎の建設だけで、40億円と仮定されていますが、実際は用地取得費や外構工事費などがかかってくると思われる。新庁舎建設の財政計画を教えてください。

A ご指摘のとおり、新庁舎建設は、用地取得費等も含め大きな金額になってきます。本基本構想では、平成29年度から毎年2億円を積み立てている建設基金30億円、一般財源2億円及び地方債8億円を合わせて40億円準備するという計画になっています。今後の検討においては、建物以外にかかる費用も含め具体化し、建設費の抑制及び歳出の平準化といったメリットが考えられる官民連携の事業手法も視野に入れながら、財政計画を立てていきたいと考えています。

Q 瑞穂市には、新庁舎建設の他にも穂積駅周辺整備事業、下水道事業という大規模な事業が予定されているが、これら3つの大型事業に関して、新庁舎建設の優先度及び財政計画について教えてください。

A お示しいただいた3つの大型事業について、市としては、どれも必要な事業であると認識しています。財政計画に関して、穂積駅周辺整備事業はまだ詳細が決まっておりませんが、下水道事業については、国庫補助、一般財源の負担金などの財政計画を立てた上で、現在までに23億円積み立てています。新庁舎については、平成29年度から積み立てを始め、現在6億円という状況です。

Q 瑞穂市の計画に比べて、周辺の大垣市、羽島市、岐阜市、各務原市、本巣市は新庁舎を建設するまでの期間が短いのはなぜか。

A 近隣の市町村は合併特例債を使って新庁舎建設を行ったため、早期に財源の確保ができたと考えられます。瑞穂市では、合併特例債を消防署の設置、給食センターの統廃合、子育て支援として別府保育所の整備等に使用しましたので、新庁舎建設については、基金を積み立てるという方法を取っています。

Q 資料25頁には、「場所候補地（案）」の線が令和7年まで引いてあり、令和8年からは用地測量となっていますが、今後、2025年までの5年間で位置を検討し最終的に決めるということか。

A 瑞穂市建物系公共施設個別施設計画に示すロードマップにおいては、そのように計画しています。

Q 新庁舎の場所について、基本構想では複数の視点で点数化して3箇所を選んでいるが、様々

な市民の意見を聞いて検討すべきではないか。例えば、穂積駅周辺は他と比べて地価が高いなどデメリットもあると思われるため、地価も評価に含めるという考え方もあるのではないかと。

A 新庁舎の場所は、市役所だけで決めていく問題ではないことは認識しており、今後、学識経験者、地元の方々に入っただいて話し合っていく必要があると考えています。今回の基本構想は庁舎建設の第一段階であり、限定的な場所ではなく3箇所の候補地を比較したもので、必ずしもこの点数通りに決定されるという事ではありません。地価及び用地の確保のしやすさなども考慮していきたいと考えています。

Q 新庁舎ができることで地域が発展するという効果もあるため、将来的に瑞穂市が発展することを考えた新庁舎の位置の選定が大事ではないか。

A 新庁舎の位置については、新たな土地に建設してまちの規模を広げ発展させるという意見もありますが、市役所としては、駅周辺も人口密度が高いという点で重要であると考えています。いずれにせよ、今後、学識経験者、地元の方々に入っただいて検討を進めていく必要があると認識しています。

Q 新庁舎の場所や機能などについて、様々な意見があると思うが、今後、どういう風に市民の意見を聞いていく予定か。今回の市民説明会の他に、市民の意見を聞く場を予定しているのか。

A これまで、市主導で検討を進めてきましたが、まずは、基本構想について広く意見をいただくために、今回の市民説明会を開催したという状況です。今後、地元の方々を含めた場において、幅広い意見をいただきながら検討を進めていく考えです。

Q 基本構想の「まもり」という言葉に「安」という字を使っているのはなぜか。

A 安心できるということをイメージしてのものです。

Q 新庁舎建設後に巢南庁舎は移転するとあるが、穂積庁舎はどのように活用するのか教えていただきたい。特に、第2庁舎はまだ新しく、第1庁舎、第3庁舎も耐震工事が行われたため、継続使用できるのではないかと。

A 現状、第1庁舎、第2庁舎、第3庁舎、巢南庁舎があります。昭和40年に建設された第1庁舎は、老朽化により維持修繕費がかかってきているということもあり、新庁舎建設後は解体を想定しています。巢南庁舎は、(巢南庁舎周辺に新庁舎を建設する場合は変わりますが、)近隣の古い公民館の機能の移転などを考えています。このような考え方は、瑞穂市の一人当たりの公共施設面積を縮小するため公共施設を統合していくという方針があることからきています。第2庁舎については、新庁舎をどこに作るのかということでも変わってきますが、利活用の可能性について検討していきたいと考えています。

Q 資料の4頁に、2庁舎体制で市民サービスの利便性が低下しているのに1庁舎体制にするということが書かれているが、仮に、穂積駅周辺に新庁舎が建設されれば、巢南庁舎周辺の住民としては遠くなるなど、利便性が上がるとは限らないと思うが、どのように考えているか教えていただきたい。

A 巢南庁舎は昭和62年建設の建物で比較的新しいため、機能を新庁舎に移したとしても壊す

事は考えておらず、維持管理の観点から周辺の老人福祉センターなど古い建物の機能を統合するなどして、周辺住民の利便性を確保したいと考えています。

Q 新庁舎の規模が 12,000～13,000 m²と算定されているが、この面積は、現在の穂積庁舎と巢南庁舎を足した約 10,000 m²に、巢南庁舎の 1 階～3 階の約 3,000 m²を足したものと同程度の規模であり、基本構想で書かれている様々な機能を新庁舎に備えるには面積が足りないのではないか。

A 面積については、総務省の一般的な基準を使用して算定しており、あくまでこれから議論をしていく上での目安としてご理解ください。

Q 新庁舎の建設は必要だとは思ふものの、“安（まもり）”や“優（やさしく）”など盛りだくさんで、何が最も重要なのがわかりにくく、本当に必要なものでできているのか疑問である。できればあった方がいいというレベルの機能は省いた方が将来的に良いと思うので、もう少し見直した方がいいのではないか。

A 今回の基本構想は、あくまでも可能性を書き出したものなので、今後の検討の中で、資金やスペースなど考慮して備えるべき機能を具体化していきます。

Q 新庁舎は、瑞穂市が出しているハザードマップの最大規模の浸水まで対応できるのか。また、大地震のことも十分考慮した設計にしてほしいと考えるがいかがか。

A 資料の 12 頁に「③防災・災害に強い庁舎、災害に対する耐久性」という項目があり、新庁舎の検討において、水害に対しては、自家用発電設備のモーターは 2 階以上、もしくは屋上に設置するなどの対策を考え、地震に対しては、建物の構造などを考慮していきます。

Q 建設方法について「民間の資金とノウハウを活用する公民連携による事業手法を検討」とあるが、そういった手法が本当に必要なのか。

A 従来の公共事業は、市役所が設計、建設、維持管理を別々に業者に委託するという方式ですが、設計、建設、維持管理等をまとめて発注し、民間の資金とノウハウを活用することで、必要な資金を減らすことができ、スケジュールを少し早くできることに加え、維持管理のしやすさも考えての事業とすることができます。PFI^{*}などの手法は岐阜県では少ないですが、他県では積極的に利用されており、一つの選択肢として検討していきます。

※ PFI（Private-Finance-Initiative）とは、公共事業を実施するための手法の一つで、民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行います。安くて優れた品質の公共サービスの提供を実現することを目的としています。

Q PFI などの事業手法は、主に大きな事業を対象に行われるもので、新庁舎の 40 億円程度では受注してくれるところはないと思うがいかがか。

A 引き続き PFI を含めいろいろな事業建設手法を調査して、検討を進めていきます。

Q 近場の自治体である岐阜市、大垣市の新庁舎はどのような事業手法で建設したのか。

A 岐阜市、大垣市ともにいわゆる従来方式（市が資金調達をし、設計、工事を別々に発注）で行ったと承知しています。

◆その他意見等

- 公共施設について、瑞穂市は1人当たりの面積を減らさなければならない状況だが、新庁舎の面積は大きくなるというのは矛盾があるように感じる。地域では市民が集う場(公民館など)が少ない状況があり、改修で対応するなど安く済ませるというのも一案ではないか。
- 穂積町と栄南町が合併した瑞穂市においては、今後栄南地域の発展への期待もあるのではないかと思う。この観点では、21号周辺や旭化成周辺で積極的に用地取得の段取りをしていくべきではないか。
- JRを毎日利用しているので、穂積駅前の開発が先ではないかと考えてしまう。市民の意見としても、駅前開発が先という意見が多いのではないか。5分でも電車が遅れると駅から人があふれてしまうような状態であり、このような駅前に庁舎を持ってくるといのはおかしいのではないかと思う。以前、横屋に駅を持ってくる構想もあったかと思うが、横屋の周辺は土地もあり、人も分散するので、悪くないのではないか。
- 職員がロビーで食事をしているのを見かけることがあり、更衣スペースが無いなどの問題もあるので、新庁舎は是非建設すべきだと思う。
- 防災、グローバルデザイン、ユニバーサルなどは当たり前の事だと思う。これらはすでに策定されている国際基準などに合うように検討していくという事でよい。一方、こういったことが先行するばかりで、新庁舎への夢や絵がない事がさみしく感じる。
- 瑞穂市は現在も人口増といわれているが、今後は人口減が想定されており、自治体や民間の企業でもAIの活用など進んでいる中で、十数年後の職員数の想定が推移を考慮した正しいものなのかなど具体的にしていけないといけないと思う。せっかく若手が基本構想の検討をやったのであれば、もっと今後を見据えた将来性のある新しいものを取り込んでいく必要があるのではないか。
- 穂積駅については、昔から南北の道路や本栄縦貫道から駅に向けてのアクセスの問題があるが、未だに解決の方法が見えていない。そういうことも踏まえて、もっと時代に即した計画にした方がいいのではないか。今回の市民説明会のような機会には、もっと若い世代が参加しやすいような告知方法などを検討していただきたい。
- 水害時に、中小学区で避難できるのは中小学校のみだ。中小学校に全住民4000人は避難できない。こういったことにも配慮して、新庁舎の規模の中に避難場所が計画されるべきだと思う。
- せっかく耐震化されているのに、老朽化を理由に壊すというのは、何のために耐震化したのかも思うため、大幅にリニューアルするということでよいのではないか。狭いという問題についても、地下駐車場が難しいというのなら立体駐車場にする等して改善するという選択肢も

ある。

- 建設位置について点数がついており、「駅前開発と合わせて整備することで新たに用地を取得する必要がない」という考えが書いてあるが、旭化成周辺に庁舎を中心とした新たな開発を考えた方が将来的によいのではないか。現在、穂積駅は通勤に利用されており周辺が駐車場ばかりで、バスも入れるようになるという構想がある。そのような場所に庁舎があるよりも少し離れた所に、大きな駐車場を設けてシンプルなデザインの庁舎があってもよいのではないか。
- 瑞穂市も将来的には人口減少になると思われるが、減少してから考えるのではなく、人口が増えていく中でも、行政サービスの質が確保されるような、市全体を視ての構想としてほしいと思う。
- 昨年、少年の主張大会で小学校5年生の発言があったが、穂積駅にこだわらなくても、新しく JR 駅を作ってその中に新庁舎を作ってはどうかという意見などがあり、そのような若者の意見を取り入れれば良いと思う。
- 今後、いろいろ研究・調査をして、様々な意見をまとめていく必要があり、これまでのようなプロジェクトチームでは足りないと感じるので、特別な部・課等を設けて進めていくべきだと感じる。